

平成 27 年度研究プロジェクト研究活動報告

研究種別	■共同研究 5
主査名	秋山孝正・関西大学環境都市工学部 教授
研究テーマ	低炭素型車両に着目した都市交通政策の有効性についての研究
研究の目的: 近年、低炭素型車両としてハイブリッド車(HV)、電気自動車(EV)、超小型モビリティ(ULV)などの普及が顕著である。本研究では多様な低炭素型車両普及に対応した都市交通政策の方向性を検討する。	
研究の経過(4月～9月): ここでは、4種類の研究課題を行った。①ULVの道路走行性能に関して、GPS・電流計を用いた計測データの収集と分析を行った。②地方都市圏の道路交通に関して、経済的政策による持続可能な交通手段への転換と低炭素型車両への更新を記述する「マルチエージェント型交通シミュレーション」を構築した。③低炭素社会の適正交通機関分担の検討として、昨年度実施したアンケート調査結果の分析を基に、公共交通機関の運用に着目した環境影響を検討した。また、④低炭素型車両に関する都市交通政策評価を試みるにあたり、低炭素型車両の導入によるライフスタイルの変化が、スマートハウスとの関係性を踏まえてエネルギー消費にどのような影響を与えるのかを定性的に整理した。	
下期へ向けて(課題等): つぎに下期の課題を述べる。①ULVの道路走行性能計評価では、複数の被験者による走行調査で得られたデータを分析し、ULVの含まれる道路交通環境変化を推計する。②低炭素型車両の都市交通政策評価モデルでは、道路交通渋滞緩和の影響把握のために交通流シミュレーションと連動し、二酸化炭素排出量削減効果を推計し、都市交通政策シナリオを比較検討する。③低炭素社会の適正交通機関分担では、アンケート調査に基づく低炭素車両含んだ各種交通機関の妥当な利用水準を示す。④低炭素型車両導入の都市活動の影響評価では、既存の空間的 地域経済モデル(SCGE)を拡張して、低炭素型車両とスマートハウス導入が、低炭素型社会の構築にいかなる有効であるかを計量的に評価する。	
研究メンバー(敬称略): 秋山孝正(主査・関西大学) 山田浩之(京都大学名誉教授) 松澤俊雄(大阪市立大学名誉教授) 石田信博(同志社大学) 青木真美(同志社大学) 文世一(京都大学) 兒山真也(兵庫県立大学) 鈴木嵩児(中京大学) 奥嶋政嗣(徳島大学) 井ノ口弘昭(関西大学) 山田正人(星城大学) 武藤慎一(山梨大学) 安田幸司(システム科学研究所) 小谷ゆかり(地域未来研究所) 小澤友記子(交通システム研究所) 小川圭一(立命館大学) 宇都宮浄人(関西大学) 岸野啓一(岸野都市交通計画コンサルタント)	